
音の調和

溝口野口

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音の調和

【著者名】

ZZマーク
N7971

溝口野口

【あらすじ】

とある演奏者達の音楽を聞いた少年の話

(前書き)

文化祭で友達が演奏しているのを聞いて、自然と浮かんできた。後悔はしていない。

ステージの上、4人の人達が今までに演奏を開始しようとしている。その様子を僕たち観客は今か今かと固唾を呑んで見守る。

バイオリン、チェロ、ギター、キーボードが置かれたその場所は、壁で仕切られている訳でもないのに、観客席から隔絶していた。そのような雰囲気をこの4人は作り上げていた。この空気に対しても、僕は一層演奏に期待を込める。

キーボードが弦楽器の調律の為に音を発する。それに引き続いでは、まずはバイオリンが、次にチェロが、ギターが同じ音を作り出す。回りの空気が音という振動によって揺らされる。同じ音だけのはずなのに、重ねられたその音は不思議と重厚さを持つた一つの流れとなる。それだけでも、僕は十分にこの小楽団の気持ちの一体感と、技量の高さを汲み取ることが出来た。

調律が終わり、にわかに張り詰めた空氣に会場が包まれた。重苦しいそれを破りギター奏者の足がリズムをとる。

「ワン、ツー、ワンツースリー、フォー」

キーボードから音が奏で始められる。いよいよ、演奏が開始され、僕達は音で編み上げられた籠の中へと、いつも簡単に放り込まれる。赤ちゃんをあやすかに思える優しい音色から楽曲が始まった。

バイオリン、チロ口の音が僕達を特別な世界へと誘う。弓と弦が擦れ合い、その音は楽器の中へと取り込まれ洗練されたと同時に増幅され、F字の孔から奏でられる。甘い恋のさわやきを、時には悲壯に満ちた表情を音とこつ手段によって描かれ、伝わっていく。

ハレキギターからケーブルを介し繋がっているアンプから、音がほとばしる。その音は、普段僕が聞いている音楽で使用される歪んだ音ではなく、アコースティックの音色を残しつつ会場中に広がるかのような音。使い手の思いが切に込められた明瞭な音は、直接私の中で響き渡る。

キーボードの中には、無機質だが多種多様で聞く者を飽きさせることのない、電子回路で作られた音があるという強みがある。当然、弾き手に選択は委ねられる訳だが、それにより始めて音に魂が籠る。他の楽器と同じように大切な役割を担っている。

そのそれぞれが自分の持ち味たる部分を活かし、演奏していた。

今奏でられている演奏は、一つ一つの楽器が互いに主張、かつ強調し合い生き物のように纖細でかけがえのない物へと変貌した。バイオリンやギターからの旋律は骨組みを作り、チロ口やキーボードの低音はそれを動かす血肉となつたのである。

ソックスは会場中を駆け、僕達を圧倒させる。同時に憂いや喜びもその背中に乗せ、僕達に届けてくれる。僕は静かにそれにもたれか

かり、しみじみと聞いていた。

演奏の指が田まぐるしく動き、もはや楽器の一部となっていた。

演奏も佳境に差し掛かる。激しい曲調へと変化し、バイオリンが細かく震え、ギターが荒々しく奮える。キーボードは鍵盤を使い感情の変化を端的に表す。

生き物が咆哮するような曲調に皆圧倒されていた。それだけ作り出された獣が雄大であつたからだ。更に壮大さを増してこちらへと歩く獣。テンポが上がるにつれて歩みも速くなつてくれる。

迫る、迫る。そのままこちらへやつて来たら僕はどうなつてしまふのだろう。普段ならば一笑して彼方へと打ち捨てられる考え方ながら、この時ばかりはとともに考えてしまった。

当然、獣が駆け出した！全速力で迫り来る、感情の波。激しくなる演奏と共に、それを口元から覗かせて、僕を飲み込まんとあらん限りの力で跳躍する！僕は思わず目を閉じた。同時に約10分間に渡る演奏も終わった。

終わった直後、僕の体は汗びっしょりで、鳥肌が全身に立つていった。皆も同じような感じでいて、しばらく動くことはなかった。

壇を切るように拍手が沸き起つ。前の演奏者が演奏を終えた時よりも遙かに多い拍手が会場全体を覆い、延々と続く。演奏は大成

功した。僕は立ち上がり、賞賛の拍手を演奏者達に送り続けた。

(後書き)

音楽つていいですよね……。

クラシック、ポップス、ロックとジャンルはあまたあれど、良い曲は必ずや私達の心を動かしてくれます。そんな気持ちを短いですがまとめてみました。一人でも共感してくれる人がいたならば嬉しい限りでござります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7971/>

音の調和

2010年10月17日01時56分発行